



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
1

「えな」という名

飛鳥時代から登場



「恵那」の語源となった恵那山

ひとくメモ

現在使われている「恵那」の表記が定着したのは、明治時代になってから。また、「エナ」の語源は、恵那山の山名のほか、「エ(彫)+ナ(土地の意味)」で、「えぐられた所」つまり侵食地形を示すという説もある。

恵那市の「えな」は、その昔「恵奈」と書かれていた。恵奈の名が初めて歴史に登場するのは、古く飛鳥時代の677(天武6)年。1998(平成10)年明日香村出土の木簡に、「三野国(美濃国)恵那里の造(里長)の阿利麻という人が次米(スキの米=天皇が神に供える米)を献上した」と書かれていた。

このことから、恵那の地は、当時の国内でも有数の米どころであったことが分かる。また、「エナ」の語源は、恵那山の山名が一般化したものという説がある。恵那山には、天照大神の胞衣(へその緒)を納めたところという伝説があり、この胞衣という言葉が語源になったと言われている。

えな自慢

2

えな人

佐藤一斎(さとういっさい)



佐藤一斎

ひとくメモ

NPO法人いわむら一斎塾が、学習会や講座など一斎の教えを広める活動をしている。また同法人は、2006(平成18)年に「言志四録」を子どもでも分かるように解説した「おじいちゃんとおぼく」を発行し、市内小中学生に配布した。

岩村町出身の儒学者。西郷隆盛にも大きな影響を与えた著書「言志四録」は、一斎が後半生に書いた語録。指導者のためのバイブルと呼ばれ、「重臣心得箇条」とともに現代まで長く読み継がれている。1772(安永元)年、岩村藩士の次男として生まれ、林述斎から儒学を学んだ。1793(寛政5)年、昌平坂学問所に入門し、1805(文化2)年には塾長に昇進。その後は儒学の最高権威としてあがめられた。門下生は6,000人と言われ、佐久間象山、渡辺華山ら幕末に活躍した人材たちも輩出。小泉純一郎元総理が衆議院で「言志四録」について触れ、知名度が上がった。1859(安政6)年10月19日、86歳で没。



次号は6月15日号

発行日は6月15日(月)です

広報えな No.106

2009年(平成21年)
6月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』6月1日号、1部当たりの印刷経費は約9.5円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
問い合わせ 防災対策課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。